

宝木地区人権推進協議会

孤独・孤立は社会全体で

取り組む課題

会長 秋山 智博

人権尊重社会づくりに関して
表題を取り上げてみます

私たちの社会は、非正規雇用労働者の増加をはじめとする雇用関係の変化、インターネットの普及に伴う情報通信社会の急速な進展等、また人口減少、少子高齢化などを背景とした单身世帯の増加といった社会の変化が進み、人と人の関係「つながり」は希薄化となり、相互に支え合う機会を減少させ、人々に生きづらさを生じさせ、孤独・孤立の状況を生む社会となってきたと考えられます。

そこに、これまでの3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の外出自粛要請等は、対面接触が制限されるなど社会生活に大き

な影響を与え、孤独・孤立を感じる人が増え、自死者数の増加の要因とも考えられ、それまでに内在していた孤独・孤立の問題を顕在化させる社会問題となりました。

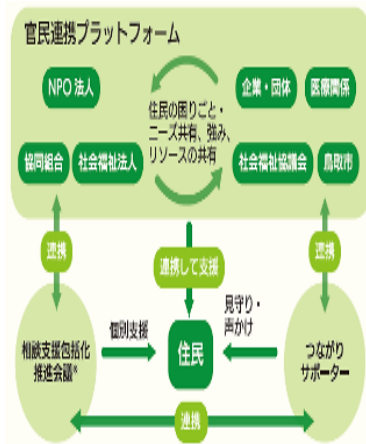


国はコロナ禍で一層深刻化したこの問題の対策を強化するとして、昨年5月31日に「孤独・孤立対策推進法」を成立させ、令和6年4月1日施行となります。

この問題は人生のあらゆる段階で誰にでも生じるものであり、「社会全体の問題である」と明記し、国等の責務、施策の基本となる事項、国及び地方の推進体制について定められています。そして、総理大臣をトップとする対策推進本部を設置し、取

り組みの指針となる重点計画を作成するとしています。

また自治体には、官民でつくる「地域協議会」の設置を努力義務とし、一体となって地域の実情にに応じて支援内容を話し合うことを促しています。4月の法施行後、総合的かつ具体的な取り組みとなっていくかどうか注視していきたいと思えます。



鳥取市においても取り組みが始まっています

生きづらさを感じる人に気づける人材の「つながりサポート1」の養成研修が「昨年12月に開始され50名の方が、「伴走方支援」について学ばれ、支援に繋がられた事例があるとのこと。

この「つながりサポーター」は支援への第一歩となるため、広範囲に増やしていくことが大事です。(令和6年1月末で210名の登録あり)

また、行政だけでは把握できない孤独・孤立問題を把握し支援できるよう、官民が連携する「鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」が、昨年3月末に10団体の構成で立ち上がり、大きな力になっていくと思われまます。今後は取り組みの具

体化や、すそ野を広げるための団体拡充などが求められます。「孤独・孤立対策推進法」は社会のあらゆる分野でとりくむことが重要としています。

私たちの地域においても「つながり」や「誰一人取り残さない地域づくり」をめざして、この社会課題にたいして出来ることから取り組んでいきましょう。



鳥取タルクを訪問して

副会長 山下 文人

令和6年2月9日に視察研修で「鳥取タルク」を訪問しました。

「鳥取タルク」は薬物依存症からの回復をめざす民間施設で、2005年6月に岩美町牧谷で設立された全寮制の施設であり、入所者入寮費15万円/月の支払いと寄付金で運営されているそうです。

依存症になるきっかけは人それぞれだという事でしたが、入所者の体験談では、人間関係を始め様々な悩みを自分で抱え込み周りの人に伝えることが出来ず、逃避するため一時的に悩みを忘れられる薬物等に快樂を求め、今度は快樂が忘れられず深みにはまり、普通の社会生活を送ることができなくなり最終的に周りの方々にも大きな迷惑をかけるようになってしまったとのことでした。昨今では、10代によるオーバードーズ（風邪薬や咳止めなどの医薬品を頻回に服用する）の問題がニュースになっており、身近な問題となっています。



身近に悩んでいる方がおられたら、そのような依存症になる前に気づいてあげられる様に気を配る、という視点も忘れないようにしたいものだと思います。

小地域懇談会

私たち一人ひとりが人権の大切さについて地域の人と一緒に学ぶことで、身近な人権について考える機会になっています。そんな小地域懇談会が今年度、4年振りに開催され「ひとそれぞれの人権」をテーマに「ケアラー・だれもが人権尊重される社会を」と「家庭からふりかえる人権」の2本のDVDを視聴し、各々が何かを感じていただけたと思います。

「家族でも考えを伝え合う努力を続けなければすれ違いが発生するおそれがある。我が家も同じだと感じた、気をつけなければいけない。」
「もっとたくさんの方に見てもらえたら、もっと暮らしやすい環境になるかもと思いました」等の感想をいただきました。



ふれあい交流会 開催!

3月3日(日) 酒津地区公民館にて「ふれあい交流会」を開催しました。当日は、さんびる健康スポーツ支援センターの瀬崎さんの指導で、椅子に座って簡単にできるレクリエーション等を行いました。「皆さん久しぶりに大きな声を出しました」「本気になってしまいい汗をかきました」等、終始笑顔の絶えない楽しい会になりました。交流会のテーマである「人と人がふれあうことで深い絆とつながりがうまれる」



を実感できたひと時だったのではないのでしょうか。
ご参加いただいたみなさんはもちろん、今回の会を盛り上げてくださった、さんびるの瀬崎さん、役員の皆さんありがとうございました。ございました。

編集後記

今年度新型コロナウィルスがら類に移行されて、久しぶりに小地域懇談会やふれあい交流会を開催することができました。参加していただいた皆様、役員の皆様、ご協力いただき本当にありがとうございました。来年度も、当協議会をとおして人権問題を考えるきっかけづくりに役立てていただけたら幸いです。

